平日はIT企業の弁護士、週末は漫才コンビ「ほどよし」。本当に好きなことで勝負する。

弁護士・お笑い芸人「ほどよし」

小竹 克明氏

弁護士 × お笑い芸人

いろんなことを同時並行してやっていくことで ひとつひとつが、思いっきりできるようになる。

2009年に香川大学法学部を卒業し、立命館大学法科大学院を経て司法試験に合格。東京の法律事務所で民事から刑事までさまざまなケースを担当する小竹克明さん。現在はIT企業にも弁護士として所属しています。さらに、お笑い芸人「ほどよし」としてテレビなどにも取り上げられている、いま注目の卒業生です。

香川大学入学当初、最初の民法の授業で「法律を学ぶ全国の大学生は、いま、誰もが同じスタートラインです。高校まで法律を専門的に学ぶ人はいませんでした。今から一生懸命勉強すれば抜きんでることができます」と言われたことが衝撃的だったと振り返ります。司法試験合格を目指し、授業が特に面白かったという金子太郎教授のゼミに入り、教授が事あるごとに説く「自分の好きなことを見つけなさい」と言う言葉を指針にしてきたのだそうです。

念願の弁護士になり、傍目には仕事も人生も順調に見えた2016年。しかし自分では「100%自分がやりたいことができている感覚がないともやもやしていた」と告白します。そんな時に思い出した「お笑いに挑戦したい」という思い。反面、弁護士と両立できるだろうか?お笑いをやるなんて不真面目な弁護士と思われないだろうか…と葛藤を抱えた小竹さんは、金子教授にメールで相談をします。返ってきたのは「"立派なことをせねばならない"なんて、考えなくてもいいのではないでしょうか。それよりも、本当に好きなことをやったほうがいい。好きなことじゃないと続けられないし、責任も持てない」という言葉。それは小竹さんが大学生だった時から変わらない、金子教授のアドバイスでした。

同年4月。小竹さんは思い切ってワタナベコメディスクールの門を叩き、週末に社会人コースに通いながら、お笑いの世界で自分の力を試してみることにしました。入学して半年後に相方の木田雄貴さんと出会い、漫才コンビ「ほどよし」がスタート。法律の知識を身近な物事と、意外な接点で結びつけるネタを持ち味に、小竹さんは真面目なボケ役を演じ、人気もぐんぐん上昇。スクールを卒業した現在はライブを中心に、テレビやラジオにも活躍の場を広げています。

「法律は積み木を積み上げていくように、頑張れば確実に成果が得られる世界。一方でお笑いは生もの、確実なことが何もない。同じネタでも、場の雰囲気や広さ、お客さんの層、ちょっとした間の取り方で評価は全く変わります」。違うことを同時並行でやっていくことは大変かと思いきや、自分の本当にやりたいことをやっているので、むしろ以前よりも楽しいと小竹さん。「弁護士を目指していた原点、本当に困っている人のために働きたいと思っていた気持ちで、ひとつひとつの案件に取り組めています。好きなことなら仮にうまくいかなかったとしても、やれるだけやったという満足感はありますよね。人にやらされたわけじゃない。自分で選んだことなら後悔はないと思います」。

今後は「弁護士としては裁判員裁判や弁護団が担当するような裁判など、経験していない分野がいっぱいあるのでいろいろと経験したい。お笑いでは、M-1グランプリなど賞レースに挑戦して結果を出したいです」と意気込みを見せます。法廷やステージで活躍する小竹さんの姿は「好きなことを追求することで、世界がより豊かに、意義あるものになる」というポジティブなメッセージとなって誰かに伝わり、その人の世界も豊かに変えていくに違いありません。

「弁護士とお笑いとでは
使う頭や視点が全く異なる。
それが新たな気づきにつながる。」